

な
む

お盆の話

住職 小野崎秀通

盆はうれしや 別れた人も
はれてこの世に会いにくる

この「お盆」という言葉は、正
式には「盂蘭盆会（うらほんえ）」
といいます。インドの梵語の「ウ
ランバナ」の音訳です。
お盆には大きく分けて二つの
意味があります。一つは、ご先祖
様への報恩です。

さて、もう一つは、孝養心を育
てるということです。親と離れて
暮らしている人は、お盆の時期に
はお土産など無くとも、元気な顔
を見せたいものです。

お盆の法要の一環として「施食
会（せじきえ）」「施餓鬼会（せが
きえ）」が行われますが、本来一
年中おこなわれている法要です。
施食会は、水中、陸上すべてのい
きものに食べ物を施し供養する
「水陸会（すいりくえ）」とか、
遮ることのない、皆平等に施す
「無遮会（むしゃえ）」とも呼び
ますが有縁の精靈、無縁の精靈に

例えはご両親のことを考えて見
てください。誰にでも一人の親が

あり、それぞれまた両親がありま
すから、十代前では千二十四人、
二十代前百四万八千五百七十六

人、三十代前十億七千三百七十四
万一千八百二十四人と一代さかの
れば膨大な人数のご先祖さまの

命が受け継がれているのです。も
しそ中の一人でもいなかつた
ら今の自分がいないわけですか
ら、感謝せずにはおられないはず
です。

お盆は、今、命あることに感謝
の気持ちを表す営みでありたい
ものです。

供養する法要です。つまり、お盆
とは両親をはじめご先祖さまへ
の孝養心からなり、施食会は自分
のご先祖さま方だけではなく、分
け隔てないおおらかな広い心で
すべての精靈に供養する慈悲の
真心からなるものです。

お盆は、今、命あることに感謝
の気持ちを表す営みでありたい
ものです。



大施食会（大施餓鬼会）

八月十七日（日）

午前十時三十分 食供養

午前十一時三十分 法話

午前十二時三十分 法要

各家のご供養の申込みをお待
ちしています。

墓地清掃

和尚様が各ご家庭を訪問した
際は、出来ればご家族全員でお仏
壇の前にそろって一緒にご先祖
様をお祈りしていただくよう
お願ひ致します。

お願い

お盆が目前となりました。ご先
祖様もお盆には普段会えない
方々の訪問を心待ちにしている
ことでしょう。そのためにはお墓
は草をとり、清掃してお参りした
いものです。

お参り後は花以外はお持ち帰り
下さい。この事は、お参りいただ
くご親戚の方にもお伝えいただ
きますようお願い致します。



文化財の菩薩の由来



文化財像

洞源院所蔵の「銅造菩薩立像」は平成元年七月に市指定文化財となつていて。時代は新羅統一時代の八世紀の作とされ、頭頂から足先まで一鋸の金銅仏。内部は中空。像高一二・四センと小さい。東北地方に現存する渡来仏の希少な一つというのが指定理由。

洞源院は康平四年（一〇六一年）源義家によって天台宗の寺院として開かれたとされる。ほぼ九五〇年の歴史を持つている。ただ元龜元年（一五七〇年）安土桃山時代に曹洞宗の寺となり、そこから数えると現在の住職は三〇代目。現在と所在場所は違う山居に往時、七堂伽藍を備えていたといふ。

時代は下がり明治四年（一八七〇年）火災に遭う。そのことごとくを焼失。その際、ご本尊を守るために寺の池に運び出した時、偶然にも胎内から発見されたのがこの菩薩像。いわゆる胎内仏である。

文化財の防火訓練

一月二十六日、「文化財防火デー」に合わせて、石巻市指定文化財「銅造菩薩立像」が安置されている洞源院で文化財防火訓練がありました。



檀家や地域住民、石巻消防団第九分団、石巻消防署渡波出張所、市関係者ら約八十人が参加。境内の本堂西側の山林から出火したという想定で行われました。

檀家役員が地域住民らを避難させるとともに、銅造菩薩立像に見立てた物品を運び出し、消防団員と消防署員が近くの消火栓と、サン・ファンパーク内の防火水槽約三百㍍の距離を、二十本のホースをつないで放水しました。



文化財防火デーは、一九四九年一月二十六日に法隆寺金堂壁画が火災で焼失したのを期に制定された。石巻市では指定文化財がある施設などを中心に毎年訓練が行われており今年は五年ぶりに再度洞源院にて実施された。

また、地域住民が消火器による初期消火訓練を実施、署員からの使用法の注意点を教わり、交代で体験しました。土井正洋石巻消防署長から「早期発見と通報、初期消火、文化財の搬出には地域の連携が欠かせない。日ごろの訓練を大事にしてほしい」と講評されました。

水子・子育
一葉地蔵尊

日常の仏教語

南無（なむ）は梵語ナマスの音写語で元々は屈するという意味です。インド人はどんな時の挨拶にもナマステといいます。テはあなたとすることですから、あなたに従います、あなたを信じますということになります。

経典中の訳語では、帰命とか帰依や敬礼などとあります。仏・法・僧の三宝や神様などに自分自身の身命をあずけてそれを敬い、心より合掌礼拝する時に唱える言葉です。

道元禅師は「身をも心をもはなち忘れて仏の家に投げ入れて」と言つて、仏様にお任せが出来ると言つて、仏様の方より行わられて来て、心が一つになるというのです。み仏をナム、ナムと帰命頂礼すれば、必ずや悩み苦しみが消えて救いがあるものと信じます。心を込めて南無〇〇と念じつづけてみてください。

正法寺参拝団に参加して

【平成二十年六月十一～十二日】



岩手県奥州市水沢区の正法寺参拝団に参加して、私がもつとも印象的で生涯忘ることの出来ない体験をさせて頂いたのは、坐禅指導をして頂いた事です。坐禅には以前から多少興味があり、本や映像で少し学び時折実践もして参りましたが名僧の直のご指導で実践体験をしたのは、今回が初体験でした。両方を対比して己が中心に湧く感情の相違にただただ驚くばかりでした。

正法寺専門僧堂（修行僧達の坐禅堂）に特別のお許しを頂き座する三十名の参拝団の方々が醸し出すあの静寂感、咳ひとつどころか

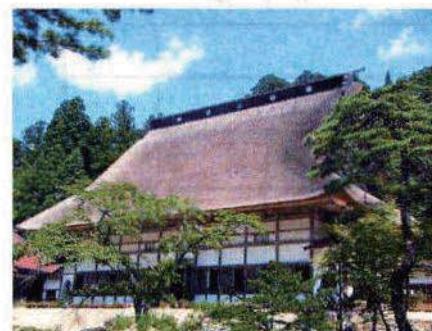


總門

西山町 阿部澄夫



庫裏

正法寺 本堂
(日本一の茅葺屋根)

隣に座する方の息の音さえ聞こえない、この世のものとは思えない様なあの静寂感。只ひとつ聞くこえてくるものは、座する三十名が醸し出す静寂を決して破壊しない、物静かで優しいご住職のお導きのお声のみ。座して只、初めて己の心に感じるものは、悠久の時の流れの中の「今」と言う一瞬のみ、時が風の如く、己の歪んだ身体と埃に塗り汚れた己の心の中を、静かに、ゆっくりと、流れて行く様が実感できました。己の心が、無になり空の世界に少しずつ、接近して行く様な確かな実感を頂きました。この滅多に得られない心の体験を今後の心身の健康管理に活かしていきたいと思つております。

不思議なお力で私達の魂を無と空の世界に導き坐禅指導をして頂いた名僧、正法寺ご住職や参拝団参加にお誘い頂いた洞源院ご住職ご夫婦、あの素晴らしい静寂を醸し出して頂いた、参加者の皆様方に改めて紙面より心から御礼を申し上げたい。

正法寺（しょうぼうじ）
岩手県奥州市水沢区にある曹洞宗の寺院。山号は大梅拈華山（だいばいねんげざん）。本尊は如意輪観音。

一三四八年（貞和四年）、東北地方初の曹洞宗寺院として、無底良韶（むていりょうしゅう）が開いた。本堂（江戸時代後期に再建された日本一の茅葺屋根を誇る）、庫裏、総門などが国の重要文化財。曹洞宗三本山の一つで、今でも修行僧が厳しい修行を行っている。

正法寺 専門僧堂
(修行僧達の坐禅堂)

◎護持会役員
会長
志摩源一
渡波地区
阿部友康
千葉芳治
内海喜太郎
阿部七郎
高橋勝男
遠山祐亨
阿部福夫
平塚三男
畠山宗雄
米谷行弘
後藤和男
笛野敬治
（渡波町三）
（黄金浜）
（新千刈田）
（大宮町）
（旭ヶ浦）
（栄田）
（渡波町一）
（万石町）
（塩富一）
（大宮町）
（新沼）
（渡波町一）

志摩源一
（渡波町三）
阿部友康
（渡波町二）
千葉芳治
（万石町）
内海喜太郎
（新沼）
阿部七郎
（塩富一）
高橋勝男
（大宮町）
遠山祐亨
（新沼）
阿部福夫
（塩富一）
平塚三男
（大宮町）
畠山宗雄
（旭ヶ浦）
米谷行弘
（渡波町三）
後藤和男
（黄金浜）
笛野敬治
（新千刈田）
（大宮町）
（旭ヶ浦）
（栄田）
（渡波町一）
（万石町）
（塩富一）
（大宮町）
（新沼）
（渡波町一）

◎渡波地区 監事 小野崎美紀 (仁田山)	◎市外地区 監事 吉野雄一 阿部二郎 鈴木哲夫 岩崎民一 (小竹)	◎佐須地区 副会長 佐々木力 須田政吉 須田興一 (佐須) (佐須)	◎祝田地区 副会長 阿部長蔵 阿部正直 高梨進 阿部文夫 阿部文夫 (祝田) (祝田)	◎旧市内地区 会計 阿部澄夫 阿部信行 畠山宗雄 (吉野町二) (大宮町) (西山町) (駅前北通り)	◎湊・鹿妻地区 阿部信行 高梨進 阿部正直 須田政吉 須田興一 須田正太郎 (佐須) (佐須) (佐須)

行事予定

平成二十年八月～平成二十一年一月
・聖和学園陸上部合宿

【八月一～三日】
・お盆行各家庭巡回
【八月十二～十六日】

・大施食会（大施餓鬼会）
【八月十七日午前十時半～】

・梅花流県大会参加（仙台市体育館）
【九月十二日】

・入彼岸【九月二十日】
・十一面觀音永代供養（二時半）

・愛々動物供養（二時半）
・敬老の集い（本年初回）

【十月四日十時半～午後二時半】
小竹・佐須・祝田地区のご老人

を対象にレクリエーション企画いたしておりますので皆様でご参加願います。

（毎年地区を変えて実施予定）

※同時にボランティアのサポートスタッフも募集しております。

・第十六回ちえぶくろ寺子屋寄席
【十月十八日午後六時半～】
金原亭伯楽師匠を招いて開催。
（木戸錢は五百円）



・曹洞宗宮城県檀信徒集会（仙台サンプラザ）【十一月二十六日】



・改歳元日初祈禱
【一月一日 零時～】

・仏の教えを聞く会

会の紹介

・坐禅の会

毎週土曜日午前六時半～八時

但し、都合により日曜日になるこ

ともあります。

・仏の教えを聞く会（法話の集い）
二月おねはん会

四月花まつり

十二月成道会

※三仏忌を基に開催する予定



【法話とピアノのコラボレーション】
【十一月二十九日午後六時半】
宮城県在住のピアニスト稻垣達也氏を招いて、ピアノ演奏のもとに釈尊のメッセージを伝えます。（ダークは千円）

寺報紙名筆書募集

「なむ」の二字をA4サイズの筆書にて募集致します。

締切は平成二十一年九月三十日

洞源院までお持ち下さい。

採用者には図書カードを進呈致します。

編集後記

この度、洞源院950の広報部

で寺報「なむ」を発行する事になりました。最近お寺は葬儀や法要

の場だけになってしまいます。仏

様の教えを各家庭生活に活かす

にはどうすれば良いか、洞源院ではお寺の行事以外にも学びの場、

癒しの場、楽しみの場として色々

と取り組んでいます。これらの事

を地元の人ばかりでなく、地元を

離れて都会で働いている人にも

知つてもらうように情報を発信

していきます。また、檀家役員や

檀家の紹介も考えています。

「なむ」に載せたい記事やこれからのお寺に関する意見でも何でも構いません。皆さんにアイディアを提供していただき、寺報「な

む」がより良いものになるよう頑張りますのでご協力をお願ひ致します。

洞源院の活動を知つてもらうため広報部を設ける事にしました。

後藤和男

・護持会主催の旅行会が年一度行われます。コースは一泊二日の参拝の旅です。

・洞源院開創九五〇年記念事業準備委員会

略称（洞源院950）

昨年六月にこれから洞源院のあり方と平成二十三年に迎える開創950年記念事業の準備委員会を設立。

洞源院の活動を知つてもらうため広報部を設ける事にしました。

後藤和男